

初めにお読みください

「九九の指導」を作成する上で留意したこと

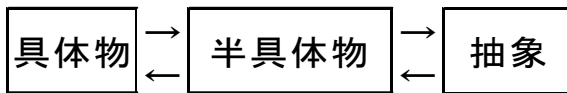
1. かけざんの意味を理解させることを大切にしました。

「かけざんは、どのような場合に使われるのか。」について、さまざまな場面・角度から理解させようと考えた。

お店屋さんの場面を通して、均等分布と不均等分布を「おなじやさん」と「バラバラやさん」という名で理解させるようにした。

かけざんは、「全体量を知りたいとき」「均等分布しているとき」、この2つの条件がそろったときに成立するという具体的な場面、操作活動を通して理解させるようにした。

2. 思考力や想像力の向上をめざした。



- ・具体物で提示した場面を抽象的な数式に発展させる段階
- ・具体物を半具体物に置き換える段階
- ・半具体物から、さまざまな具体物を想像する段階
- ・抽象的な数式から、さまざまな具体的な場面を想像する段階

と、九九の指導と並行して子どもの思考力や想像力に働きかける学習場面を意図的に配置した。そのため、九九の指導の順序が教科書のような配列にはなっていない。これは、新しい思考段階では、できるだけ小さな数で導入し子どもの理解を助けたいという考えからである。

九九を教えることを通して、

- ・かけざんの意味を繰り返し理解させる
- ・子どもの思考力や想像力に意図的に働きかけることをねらっているのである。

お店やさんが、あります。

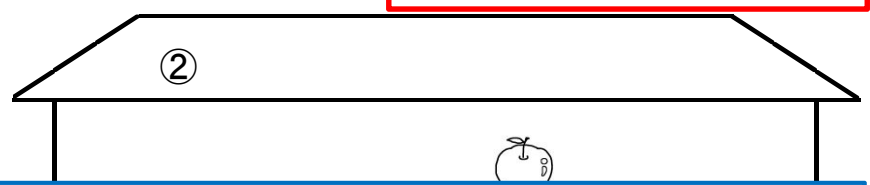
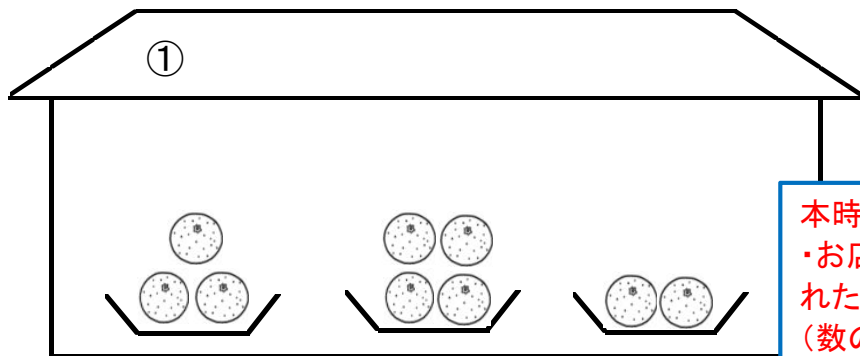
しなものは、ぜんぶで いくつ あるでしょう。

資料1

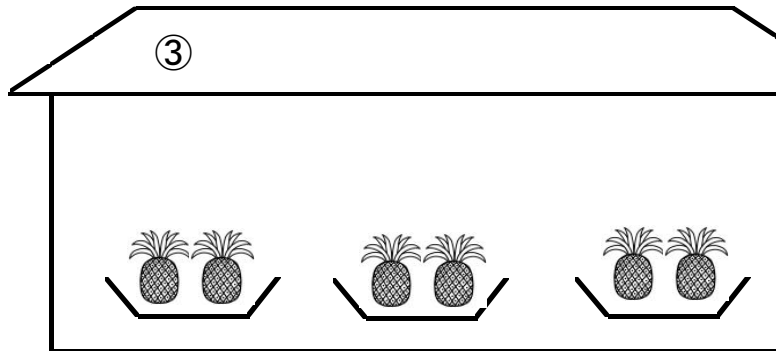
(1)かけざんの意味

① ぜんぶでなんこ

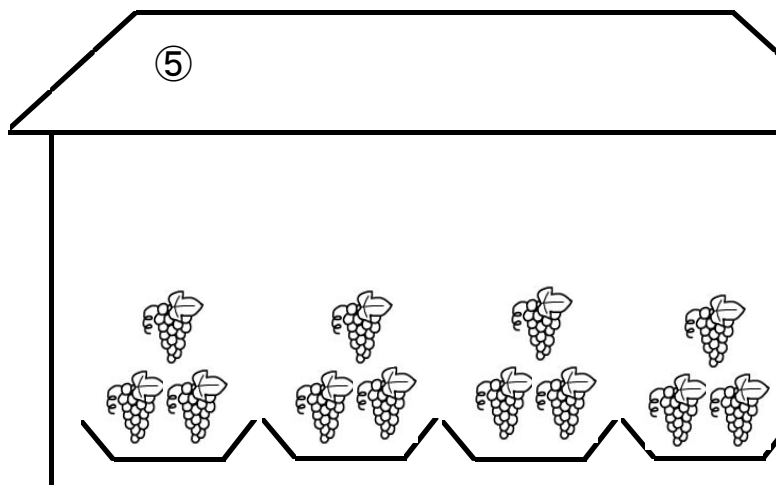
資料1~2 1時間



答え _____



答え _____



答え _____

本時の目標

・お店屋さんには、1つのさらに、同じ数ずつ入れた店とバラバラに入れた店とがあることを理解させる。

(数の分布には、均等分布と不均等分布があることを知る。)

1. 課題

「お店やさんの 品物の数を 数えましょう。数え方を後で発表してもらうので、プリントに書ける人は書いておいてください。」

2. 各自考える

<予想される子どもの考え>

①の店

ア いち に さん ……きゆう

イ $3+4+2=9$

③の店

ア いち に さん ……ろく

イ $2+2+2=6$

ウ に し ろく

多面的なものの考え方や思考の柔軟性を育てるため、さまざまな数え方を奨励し、理にかなっていれば評価したい。この段階では答えが「6」であれば、特に数え方にこだわる必要がないと考えるが、一般的にはさまざまな考え方の中で、より合理的な考え方はどれか追求することは大切である。

3. 発表する

4. 深める

「①から⑤の店をよく見ると、品物の並べ方で、2つの仲間に分けることができます。どの店とどの店が仲間でしょう。」

5. まとめ

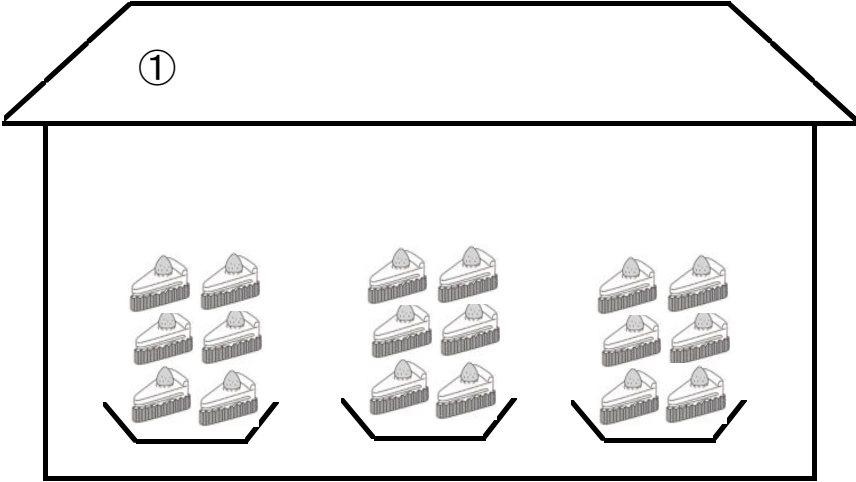
「お店やさんに、名前をつけましょう。」

「おなじやさん」と「バラバラさん」とまとめたい。

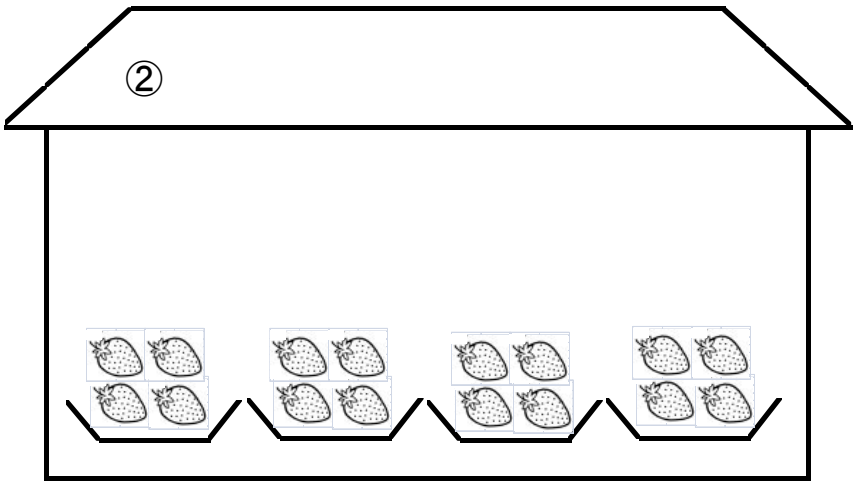
「おなじやさん」「バラバラやさん」と命名しなければならない必然性はないが、他の名前にした場合は、以降のワークシートをそのように修正すること。

おなじやさんは、どれでしょう。
また、おなじやさんの 似たものは、ぜんぶで
いくつあるでしょう。

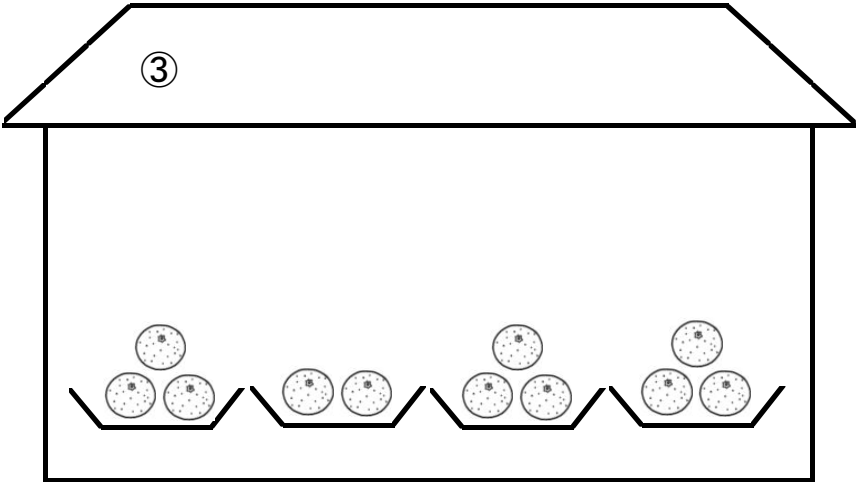
資料1の練習問題である。
これによって、おなじやさんの概念を定着させたい。



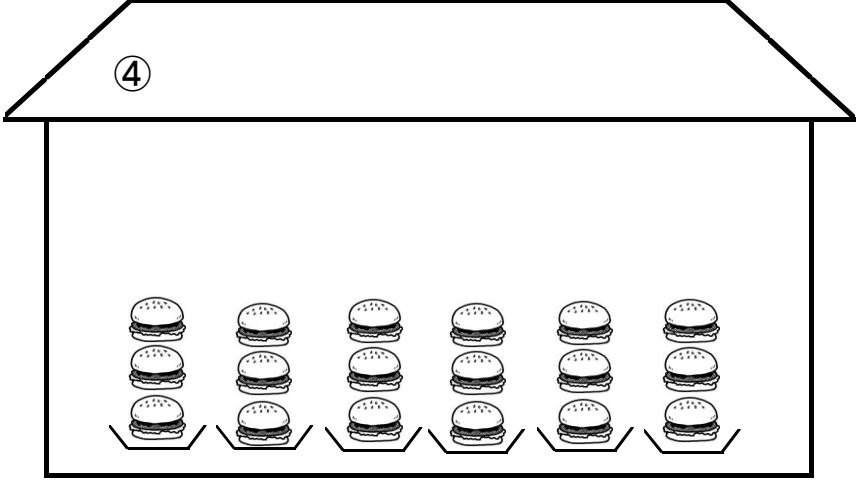
答え _____



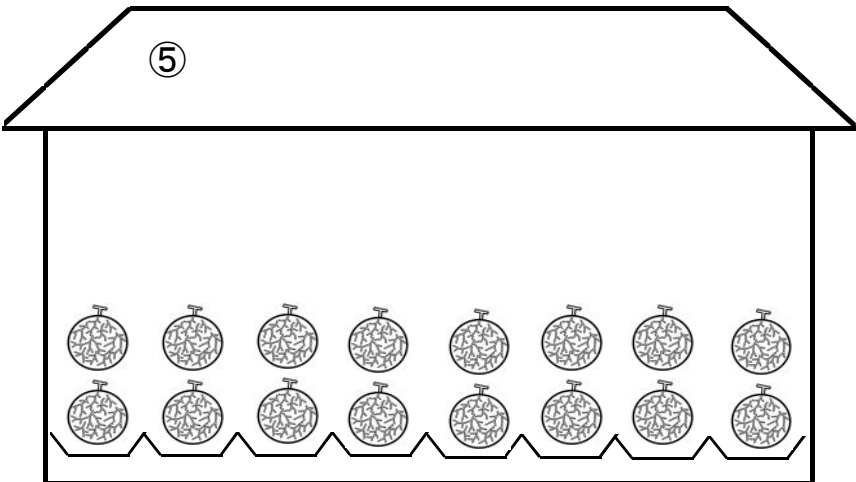
答え _____



答え _____



答え _____



答え _____